

ひこねしじんけんけいはつしりょう
彦根市人権啓発資料

ゆきどけ

だいごう
第50号



じょうなんしょうがっこう ねん なんぶ そよか さくのひん
城南小学校 4年 南部 颯花 さんの作品

じぶん 自分らしく あなたらしく
かんが これからを考えよう

ふりつもったゆきが、はるのとうらいによってとけていくように、わたしひとりひとりの心が融け合い、ぬくもりを感じる事ができるまちであってほしい。
ゆきどけのタイトルには、そんな思いがこめられています。

自分らしく

自分らしいと思うときはどんなときですか？



幼いころに描いていた“将来の夢”。
「宇宙飛行士」「ケーキ屋さん」
「プロスポーツ選手」「学校の先生」
いろんな夢があったのではないのでしょうか。



でも、ある少年は、「何にもなりたくない。」と答えました。
幼い彼にとって、“将来”は大きすぎて、すぐに夢を描く
ことができなかったのです。



そんな彼に彼の父は、
「おまえらしい。夢ならいつか持てばいい。」
と静かに言いました。

将来の夢をすぐには描けなかった少年の結論を、父親は尊重したのです。
そして「夢ならいつか持てばいい。」と、少年の未来につなげました。

大人になった今、彼の夢は、「おいしいものを食べること」「仕事をがんばること」「毎日健康でいること」という、小さな夢の集まりでできています。
そして、これらの夢は、幸せな毎日を過ごすうえで、彼の原動力になっています。





普段の暮らしや生活の中で、自分の考え方や価値観が、他の人と異なることがあるかもしれません。

そんなとき、どちらか一方だけが“自分らしさ”をガマンして、相手の考え方や価値観に合わせなければいけないとしたら、「誰もが幸せに暮らせる社会」と言えるのでしょうか。

世界に一人としてまったく同じ人間はいません。双子だって好き嫌いまでぴったり同じではないでしょう。

「私が私であること」「あなたがあなたであること」
「それぞれに違いや個性があること」は、
とても素晴らしいことなのです。



それぞれが“自分らしさ”をもって、そして、
お互いの“あなたらしさ”を尊重し合うこと
ができる社会こそが、



「誰もが幸せに暮らせる社会」

であると、そう思いませんか。

最近、どんなことでひとを「すごい！」
と
おもいますか？



あなたらしく



A子ちゃんの思い

Yちゃんがね、「A子ちゃん、きのうとおなじ服。おせんたくしてね」っていったの。Yちゃんいつもかわいい服。いいなあ。

わたしはね、わるい子なの。きっと先生もわたしのこときらい。おきがえするとき、わたしおトイレににげるもん。きたないの。パパもみせちゃだめってってる。でもね、やくそくもってるから、きっとパパがだっこしてくれるよ。

子どもが「ひびく」

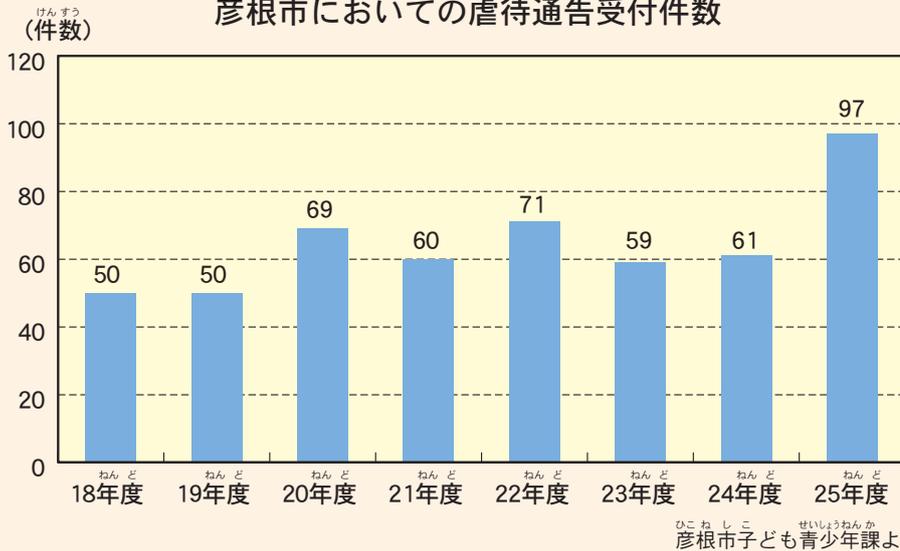
どうしてあんなに?

虐待を受ける子どもは、数日間同じ服を着続け、汚れが目立ったり、極端にやせていたり、見た目で見分ける場合がありますが、自尊心が欠如していたり、人前での着替えを嫌がったり、極端に甘える、または攻撃するなども、虐待を受ける子の特徴です。

子どもゆえに虐待されているとわからず、大人になって自分が虐待されていたと気づいた人も少なくありません。

A子ちゃんに気づいた私は...

彦根市における虐待通告受付件数



大人は半分以上は
 なのかな？
 人権も半分？



上のグラフは彦根市での、平成18年度から平成25年度までの虐待通告受付件数です。平成18年度から平成24年度までの件数は50件から70件ほどですが、平成25年度は97件と多くの通告がありました。そのうち8件は実際に子どもを一時的に保護しました。受付件数の増加は、虐待通報に対する市民意識が向上したとも考えられます。虐待の通報は、子どもたちの保護につながります。

地域で子どもを見守ることは、将来大人になって社会を担う子どもたちを支援することでもあります。大人も子どもも、同じ一人の大切な人間です。

お隣さんの思い



最近お隣さんの怒鳴り声がよく聞こえてきます。とくに子どもの泣き声がひどく、たまにその子が一人で家の前に立たされています。様子が分かるだけに気持ちが沈み、最近では趣味のガーデニングもしづらくなりました。どこかに相談した方がよいとも思いますが、もし私たちが話したことが、あの子のご両親に知られたらと思うと、怖くてなにも言えません。お隣さんの問題に私たちが首をつっこむのもよくないですし……。

お隣さんに気づいた私は …

虐待と疑われる事象を発見した場合には、全ての人に通報義務があります。この義務は『児童虐待の防止等に関する法律』にも定められています。また、通報した人が特定されないように通報者は守られます。通報の空振りには許されても、見逃しは許されません。勇気ある通報で、助かる子どもがいます。

ご両親に気づいた私は …

育児への不安や、仕事や家庭のストレスから、つい子どもに暴力を振ったり、育児を放棄したりする親もいます。自分が虐待をしていると気づいていない親もいます。親の様子も気づきのサインです。経済状態や家庭内の悩みなど、虐待の原因を相談することで、虐待を防ぐことにもなります。暴力的な言動は「しつけ」ではありません。

虐待している親の思い

母親：夫は仕事でなかなか子育てに参加してくれず、A子は言うことを聞きません！子育てについて相談できる人なんていません。最近では気落ちして家事すら辛く、夫とはよく揉めます。

父親：妻が育児ノイローゼにかかり、仕事も辞めたため世帯収入が減りました。だから以前より給料の高い仕事に転職しましたが、忙しく、A子に構ってられません。でも、ちゃんとわがママを言わないいい子にします。叩くのは私たち親の愛情なんです。しつけです。



あなたなら

大人が「ひびく」

大切な友達

友だちだ。

Bくんとはくは

お母さんに聞いた。Bくんが住んでいるのは「同和地区」なんだって。

あの子は…

大人たちが

ごめんねBくん、

ぼくはBくんに、「これからもずっと友達だよ」って言ったんだ。

笑ってた。

Bくんはそのとき

ぼくは笑顔のBくんに、「今日から友達やめようよ」って言ったんだ。

Bくんとぼくは、かけがえのない友達です。そんな二人の関係が、大人たちによる根拠のないうわさや偏見で失われてしまうとしたら、Bくんとぼくの心には大きな傷が残ってしまうのではないのでしょうか。

Bくんはどんな子だと思いますか？ やさしい子、楽しい子、わんぱくな子？
大事なのはBくんの住んでいるところではなく、Bくん自身を知ることなのです。

上の6コマ漫画は、左回り（😊）と、右回り（😞）で、結果が違います。それぞれの場で、もしあなたがそばに居たら、ぼくやBくん、周りの大人たちにどんなことを伝えますか？



😊 の場合

😞 の場合



どうして、生まれたところや住んでいるところで、大切な友達と遊べなくなっちゃうの？
BくんはBくんなのに。

同和問題を解決していくために、一人ひとりにできることは？

「同和問題」は、特定の地域に生まれたこと、あるいは住んでいることだけで差別されるという、まったく根拠のない人権侵害です。問題解決に向けた取組によって、差別が表面化することは少なくなりましたが、今もなお、身元調査を目的とした個人情報の不正取得が行われるなど、根強い差別意識は残っています。

交流を深めて、お互いを知ることが大事！



人権・福祉交流会館『WAとねす春日』は、人権啓発活動、地域住民との交流、住民福祉の向上、教育活動などを進めています。同和問題の解決のために、地域住民の自治意識や連帯意識の高揚を図り、明るいまちづくりを推進しています。

右の写真は『WAとねす春日』で行っている、小学1年生から3年生までの夏休みの学童保育教室の様子です。指導員の中には、かつて学童保育教室で学んできた青年たちもいます。



集団活動を通して子どもたち同士の交流を進めるなど、青少年を地域ぐるみで育ていく活動です。

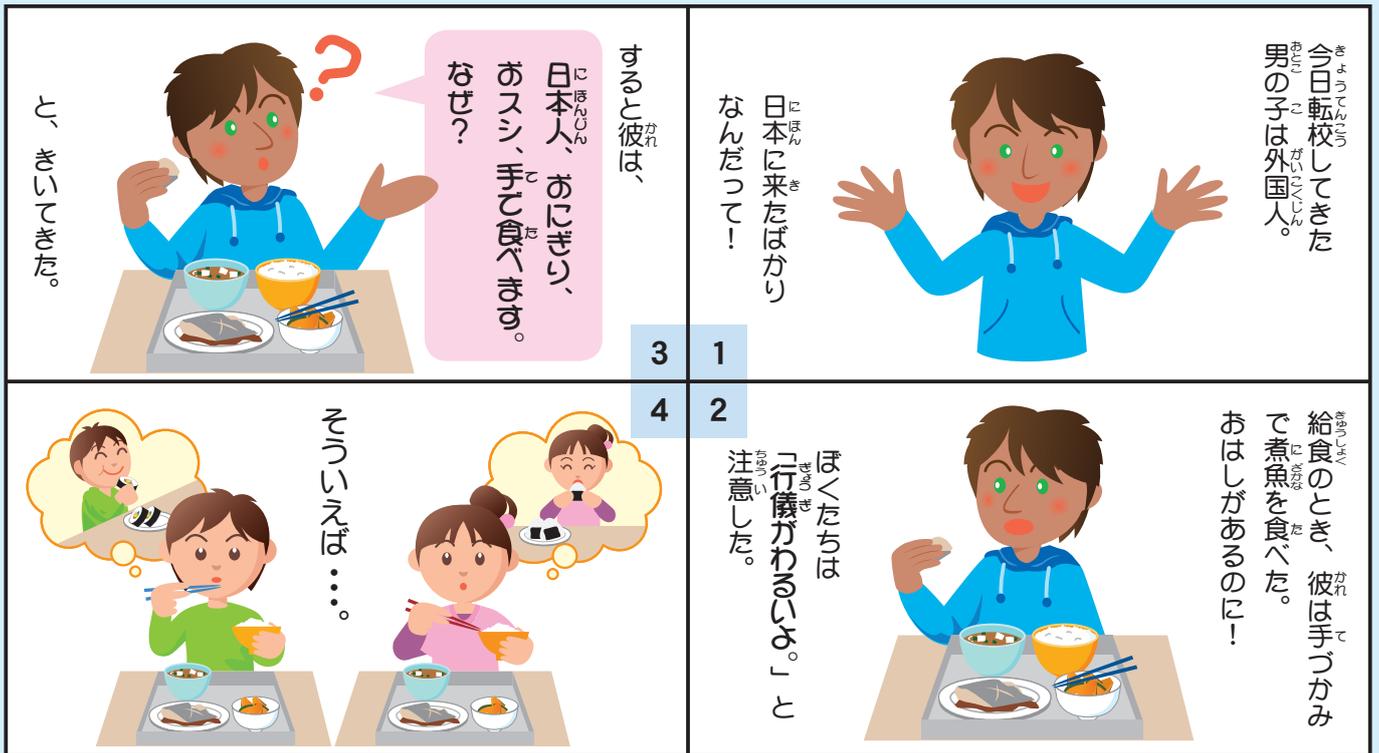


左の写真は、和太鼓衆『当為』という太鼓チームです。普段はWAとねす春日で練習しています。「当為」とは「そうあるべきことをそのようにすること」を意味します。太鼓の音が響くように、部落解放という思いを音に託して、人々の心に届けます。

みんなが一緒だと楽しいよ。
一緒に遊んでくれたり、困ったときに助けてくれたり、
そばに仲間がいるって、すごくうれしいなあ。



文化への理解を深める



外国の文化を理解することとは

ご存知ですか？ 世界人口の4割ほどは手食文化です。上のマンガの3コマ目の男の子の質問に、あなたは答えられますか？ おにぎりを手で食べることは、かつて日本人も手食文化だったからだという話があります。

「文化」は地域や時代で大きく異なります。外国の文化や思想に接したとき、「おもしろい」「おかしい」だけではなく、「なぜこの文化があるのか」「なぜこう思うのか」を考えてみてください。理解はそこから始まると思いませんか？

ナターリヤの部屋 ～国際理解は身近な場所から～

彦根市がアナーバー市と行っている中学生北米派遣の報告会で、帰国したばかりの中学生が「私はアメリカに行って、日本のことをよく知らないと気づきました」と言いました。私はとても共感しました。多くの方は外国に行ったり、外国人に接したりすると、その中学生と同じように自国のことを深く知らないと感じてくでしょう。来日して、私が日本人に日本語や日本のことについて質問すると、返答できない人もいました。

自国の文化について説明できないことは、恥ずかしいことではありません。今までそれについて考える機会がなかっただけで、それが普段気づけない国際理解の面白い点だと感じます。私は、国際理解とは外国の文化を理解するだけでなく、自国の文化を含めて外国の文化について考えるものだと思います。

では、どうして国際理解に自国の文化を知ることが大事なのでしょう？ 人は環境から影響を受けます。自国の言語と習慣を学んで、価値観やユーモア、対話力などが身に付きます。自国に対して「なぜその習慣や考え方があるの？」「どうしてこの文化がはじまったの？」など自問自答してみると、自己や社会のことを深く理解し、その文化がどのように外国人に影響するか考えることができるでしょう。

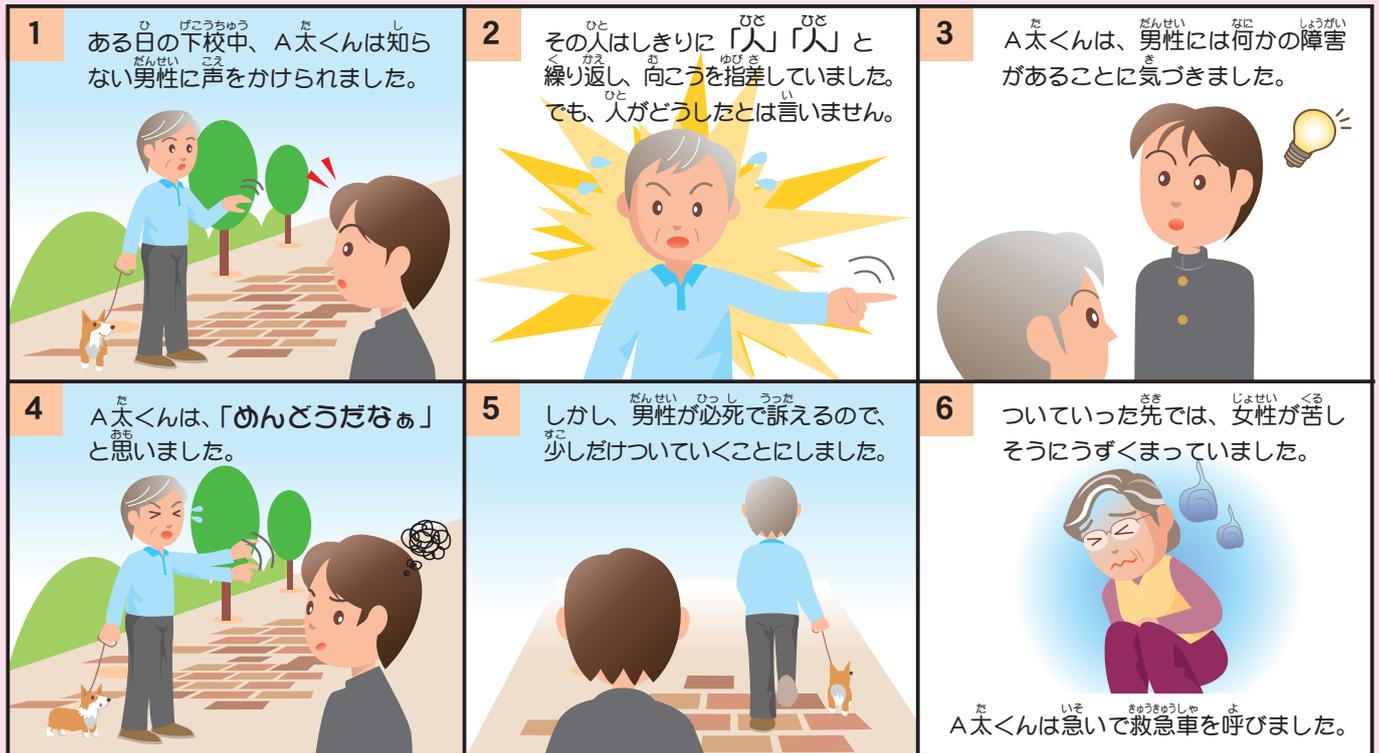
これからは自国の文化について、改めて考えてみてはいかがでしょうか？ それだけで面白い発見ができるかもしれません。

国際理解の始まりは海外ではなくて、自分自身の心からだと思いますか。

彦根市国際交流員 ナターリヤ アブレウ



なに しょうがい 何が障害なんだろう？



男性には「言語障害」がありました。上手に話せませんが、周りの様子は理解できます。女性を助けようとする人々に救助を訴えましたが、無視されたり「バカにするな！」と怒られたりして、まともに話を聞いてもらえませんでした。そこにA太くんが通りかかりました。

女性を救うまでに「しょうがい」となったことは何だったのでしょうか？

さまざまな障害とその症状

○内部障害

身体障害の一つです。病気によって心臓やじん臓などの内臓機能が正常に機能しないなどの障害があります。外見は健常者と同じに見えますが、日常生活に制限がある人や、通院している人もいます。

○高次脳機能障害

病気や怪我などで脳が損傷し、認知機能に障害が起きている状態です。記憶障害や注意障害、遂行機能障害などの様々な症状があります。日常生活や社会生活に制約があり、介助が必要な人もいます。

○発達障害

アスペルガー症候群や自閉症、注意欠陥多動性障害および学習障害などです。生まれつき脳の一部の機能に障害がありますが、病気ではありません。一生発達しないわけではなく、周囲からの理解と適切なサポートがあれば、成長とともに改善されていく課題もたくさんあります。

○障害の種類は他にも様々あります。知らない障害名を聞いたときは調べてみましょう。



一番の「しょうがい」は、相手を知らうとしないことね。

自分らしく生きるって？



いつもズボンだけど、たまたまスカートをはいたら、「ステキだね」と言われた。ほめられるのはうれしいけど、ズボンも似合うわ。私はいつもステキよ。
(20代女性)

先日、同窓会に出席した。今は何をしているか聞かれたので、「主夫」と答えた。すると、「男は稼いでナンボだ。嫁さんがかわいそうだ。」とバカにされた。僕も妻も幸せなのに。
(40代男性)



『女性の人權』と聞いた同僚が、「また女の話聞くのが。」とため息をついた。自分の妻と娘を前にしても、ため息をつけるのか？
俺は妻が大切だから、ちゃんと向き合いたい。
(50代男性)

自分のより良い生き方に、男性らしさや女性らしさはどう影響するでしょうか。自分が男性であること、女性であることに誇りを持つことは素晴らしいでしょう。しかし、性別にとらわれて、仕事や家庭や趣味などに自分で制限をかけていませんか。

男性らしさ、女性らしさより、自分らしさを大事にしたいですね。

彦根市男女共同参画センター ワイズイベントセンター



▼ワイズは何のための施設ですか？

市と市民が一緒に男女共同参画社会の実現をめざし、その活動を行うための拠点施設です。男女を問わず個性を確立し、認め合い、能力を発揮できる社会をつくるために、様々な事業をしています。

また、当館の目的に沿った活動であれば、開館中いつでも誰でも利用できます。ホールには小さなお子さんが遊べるスペースもありますし、図書コーナーでは関連本だけでなく、絵本や雑誌なども貸し出しています。会議室など部屋を借りる場合は使用料がかかりますので、詳しくはワイズ事務所にお尋ねください。

▼どんなことをしていますか？

男女共同参画セミナー、女性チャレンジ支援講座など、様々な講座を開催しています。また、男女共同参画社会に関する団体活動の支援として、場所や情報の提供などもしています。

『かけはし』という広報紙も発行しています。

▼様々な講座がありますが、特にオススメの講座は何ですか？

男女共同参画セミナー『さんかく塾』です。「男女共同参画とは？」から始まり、市内を見回る「まちに出よう」や、講師を招いてお話を伺う「公開講演会」など、盛りだくさんの5回連続講座です。他にも「あとこ塾」という男の生き方をテーマにしたものもオススメです。どんな講座があるか興味がある方は、ぜひワイズにお問合せください。

▼困った事があれば、相談すること
は出来ますか？

男女共同参画に関わる、様々な悩み相談ができます。この相談は水・木・金曜の午後1時から4時まで、電話相談か面接で応じます。このころの悩み相談や法律相談も毎月一回行っています。事前予約が必要で、相談は無料です。プライバシーは守られます。相談専用ダイヤルは、

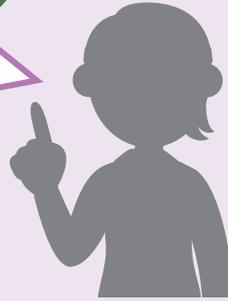
TEL 21-5757
です。



所在地：平田町670番地

男？ 女？ ジェンダー

「多様な性」とはどんなことだと思いますか？



私の恋人はバイなんだけど、それを知った友達に、彼との交際をやめるように言われた。誰でも好きになるなら浮気するって。彼はとても堅実な人なのに。(30代)



私の体は男の子。でも心は女の子。身体測定が嫌いで、女の子たちとアイドルの話をするのが好き。私は大人になりたい。(10代)



俺はゲイなんだけど、友人に打ち明けたら、「女の格好してないし、わからなかった。」と言われた。ちがうよ。恋愛の対象が男ってだけなんだ。(30代)

ある日娘があらたまって、将来を誓った人がいるから、俺に会ってほしいと言ってきました。なんと相手は娘と同じ女性らしい。俺はどうしたらいいのだろう。(50代)



マイノリティという個性 ~LGBT~

〇レズビアン(L)、ゲイ(G)

女性が女性に対して恋愛感情などをもつ人をレズビアン(L)、男性が男性に対して恋愛感情などをもつ人をゲイ(G)といいます。多くの方は異性に対して恋愛感情などをもちますが、レズビアン、ゲイの人々はそうではありません。それゆえに周りの無理解や偏見に悩む人もいます。彼女らにとっては、同性の相手を愛することが「自分らしさ」なのです。

〇バイセクシャル(B)

異性、同性のどちらにも恋愛感情などをもつ人を、バイセクシャル(B)といいます。バイセクシャルの人にとっては、男性も女性も愛すべき対象になります。トランスジェンダーの人とのカップルもいます。

〇トランスジェンダー(T)

肉体的な性別と、精神的な性別が一致しない人です。体は男性でも心は女性という人もいますし、体が女性でも心が男性という人もいます。体と心の性別が一致しないことで、更衣室での着替えやトイレの使用など、日常生活で困る人もいます。

周囲の理解で、当事者は自分らしい生き方ができます。LGBTについて知っている人も、知らなかった人も、「多様な性」について改めて考えてみませんか？



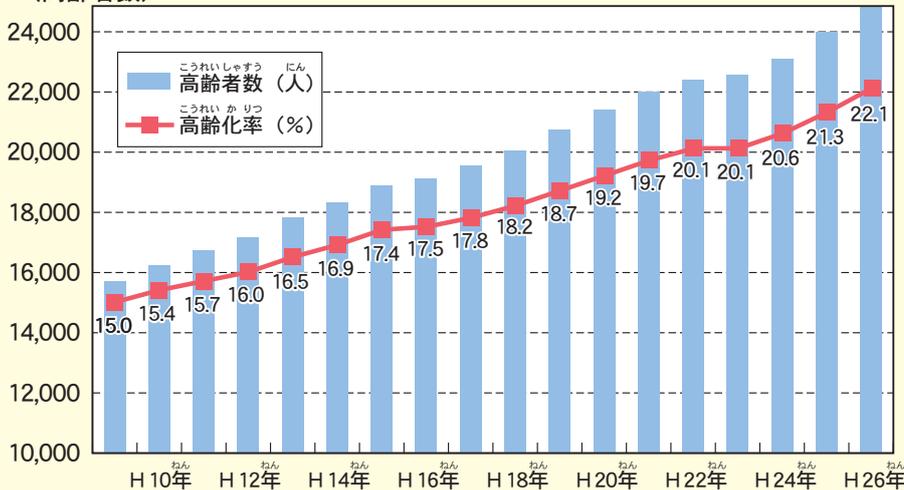
こんな人生を歩みたい



あなたは高齢社会をどのように過ごしますか？



彦根市の高齢者数・高齢化率の推移



高齢者数=65歳以上人口 高齢化率=人口に対する高齢者の割合

彦根市介護福祉課より

左のグラフは彦根市の高齢者数・高齢化率の推移です。彦根市では平成17年から平成26年の10年間で、高齢者数は約5,300人、高齢化率は4.3%も増えました。



年齢を重ねても「自分らしくありたい！」

公益社団法人『彦根市シルバー人材センター』は、60歳以上の高齢者が会員で、「自主・自立、共働・共助」の理念のもとで、意欲を持って働く組織です。

剪定や除草の仕事をしたり、駅前自転車駐輪場や放課後児童クラブ等で働いたりしておられます。

公共施設の清掃や、材料費のみで自助具を作る等のボランティア活動の取り組みもされています。

長い人生経験で得た知識や経験、様々な技術を活かした方々が、年齢にとらわれず、いきいきと活動されています。



彦根市シルバー人材センター

所在地：開出今町1419番地

TEL 22-5622 FAX 26-4800

いつかのために、^{にんちしょう}認知症とつき合う^あ準備^{じゆんび}を



認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたために、様々な障害が起こり、生活する上で支障が出ている状態（およそ6か月以上継続）を指します。代表的な症状に記憶障害があり、記憶の一部をすっかり忘れてしまうことなどがあります。65歳以上の4人に1人は認知症またはその予備軍（軽度認知障害）と推測されています。

いつか自分や家族がなるかもしれない認知症という病気について、正しく知り、病気をもつ人の気持ちを考えることが大切です。理解を深めることで、認知症とつき合う準備となります。



まちづくり懇談会でも認知症について学びました。認知症の人は、症状が原因で、思い出せないことや出来ないこともあります。こうしたときに、周囲の人から否定や非難されると、自尊心を傷つけられることとなります。

～^{にんちしょう}認知症サポーター養成講座～

誰もが安心して暮らせる地域をつくるため、あなたも認知症を学び地域や職場で支え合う一員になりませんか。

【問い合わせ先】彦根市健康推進課
電話：24-0816
FAX：24-5870



～メール^{はいしん}配信システム～ (^{ゆくえふめいこうれいしゃなど}行方不明高齢者等の^{そうさくしゃじょうほう}検索者情報)

認知症の症状により行方不明になった人の早期発見のために、協力者の登録を進めています。検索依頼があった場合、登録者の携帯電話にメールで情報が配信されます。

<登録方法>

彦根市：touroku@hikone-city.jp
へ空メールするか、右のQRコードから登録できます。



バス停でバスを待つ近所の高齢女性を見かけました。女性は外出すると家に戻れなくなり、その度に家族が探しています。今まで気にもしませんでした。認知症なのかもしれません。近くに家族はいないようです。気になったあなたは、声をかけることにしました。

あなたはどのように女性に接しますか？

これからを考えよう

～人と人とのつながりを大切に～



「ゆきどけ」第50号では、『自分らしく、あなたらしく、これからを考えよう』をテーマとして、さまざまな人権について考えてきました。

“自分らしさ”とは、ありのままの自分を認め、そしてそんな自分を好きになることです。もちろん、今の自分がすべてではありません。今よりも、もっとなりたい自分へと変えていくことも“自分らしさ”です。

そして、“あなたらしさ”とは、自分以外の他人、例えば、友人や地域・職場の知り合い、自分の家族などがもっている、

考え方や価値観の違いを認め合い、お互いに尊重し合うことです。自分にはないものをもっているからこそ、尊い存在であり、助け合ったり支え合ったりできるのです。

でも、現代社会では、さまざまな理由や背景により、“自分らしさ”を大切にできない人も数多く存在します。虐待を受けている人、偏見や差別をおそれて本当の自分を隠している人、無理解や無関心によって異なる扱いを受けている人、夢や希望をもつことを諦めざるを得ない人。

このような人が、たとえ一人でも存在する社会というのは、本当の意味での「誰もが幸せに暮らせる社会」ではありません。

すべての人が“自分らしさ”を大切にできる社会にしていくためには、自分と同じように“あなたらしさ”も大切にできる社会でなければなりません。

私たちが暮らす彦根のまちを「誰もが幸せに暮らせる社会」にしていくために、みんなで“これから”を一緒に考えていきませんか。

このことが、自分自身の“これから”を考えていくことにも、きつとつながるのではないのでしょうか。

「自分」と「未来」は変えられる。

そのときに「自分」と「未来」を豊かにしてくれるのは、自分にはないものをもっている“大切な人たちとのつながり”だと、そう思いませんか。

これから変えていきたいことはどんなことですか？



ひとりで悩まず相談を



未来を変えるのはあなた自身です。
 そのための助言や情報提供の
 相談窓口をご紹介します



女性に対する暴力など

女性の人権ホットライン

(大阪府内)

☎ 0570-070-810

(全国共通番号)



ひきこもり等子ども・若者
 (思春期・青年期)に関する相談

滋賀県立精神保健福祉センター

(ひきこもり支援センター)

☎ 077-569-4060

(初回受付)

子どものいじめなど

子どもの人権110番

(大阪府内)

☎ 0120-007-110

(全国共通番号)



法律が関係する相談

日本司法支援センター 法テラス

法的トラブル一般：☎ 0570-078374

犯罪被害者支援：☎ 0570-079714

(全国共通番号)



児童虐待の発見

児童虐待ホットライン

(中央子ども家庭相談センター内)

☎ 077-562-8996

(24時間対応)

人権全般に関する相談

大阪府内
 大阪府庁

☎ 0570-003-110

(最寄の相談先につながります)



※上記の相談窓口は、彦根市が行っている相談窓口ではありません。

※相談によっては24時間対応していない場合や、相談日時が決まっている場合があります。



城西小学校 1年 田村 優佳 さん

おもいやり
すごくいいこと
つまってる

城東小学校 1年
清水 彩音 さん

めざします
未来もずっと
いじめの
ゼロ

亀山小学校 3年
高橋 賢太 さん

違うこと
認めてあげて
個性だよ

南中学校 1年
東川 有絢 さん



城陽小学校 4年 澤田 遼太 さん

さしのべよう
君の右手と
その勇氣

東中学校 1年
種村 涼花 さん

思いやり、
紡いで、築く、
愛ある社会

株式会社 公益社
加藤 宏行 さん

伝えよう
私の気持ち
感じよう
みんなの心

タカタサービス株式会社
富尾 俊己 さん



城南小学校 6年 山下 玲奈 さん

はーとふるメッセージとは

毎年7月～12月の間に、彦根市に在住、在学、在勤されている方を対象に、人権をテーマにした作品を募集しています。作文部門、標語部門、ポスター部門の3部門があり、毎年多くの応募をいただいています。

受賞した作品は、パネルとして貸し出しも行っていきます。

なお、冊子に掲載しているポスターや標語の学校名と学年は、応募当時のものです。

この一冊が、人生を
豊かにあるうえで、
少しでもお役に立ち
ますように。